

第18回 現代世界の系統地理的考察

■■ 資源と産業編 ■■

世界の第3次産業を見てみよう

監修・講師
沼畑早苗

学習のねらい

産業は一般的に、農業・林業・漁業などの第1次産業、鉱業・建設業・製造業などの第2次産業、そしてこれらに含まれない第3次産業に分類されることを理解しよう。また、第3次産業の例として観光産業を取り上げ、その形態が多様化していることを、背景をふまえて理解しよう。さらに、産業の空洞化、人口減少が進む日本においては、外国人観光客が重要であることに気づき、継続した誘致のためにはどのようなことをすべきか考えてみよう。

今回のポイント

- 第3次産業の発展
- 多様化する観光産業
- 日本の観光産業

■■■ 第3次産業の発展 ■■■

第1次産業と第2次産業に分類されないさまざまな業種が第3次産業として分類される。第3次産業に共通するのは、商品、情報、サービスなどをやり取りすることによって富を生み出すことである。一般に、経済の発展に伴い、第1次産業から第2次産業、第3次産業へと産業の中心が変化する。

先進国では、脱工業化社会、経済のサービス化が進行した結果、就業人口に占める第3次産業の割合が高い。日本の産業別人口構成の推移をみると、1950年以前は第1次産業の比率が高かったが、1950年代後半から1970年代前半の高度経済成長期に第2次産業、第3次産業の比率が増え、その後、第3次産業がのび続け、2010年以降は7割を超えている。

さまざまな第3次産業の中で、現在特に注目されているもののひとつが観光産業である。

■■■ 多様化する観光産業 ■■■

生活が豊かになり、余暇時間が増加すると、国や地域を越えた観光がさかんになる。世界で最も多くの外国人観光客を集めている国はフランスであり、その数は年間8,000万人を超える。一口に観光といっても、文化・歴史・自然を楽しむ観光から、人工的に作り出した非日常的な施設や空間を楽しむ観光など、その目的はさまざまである。

観光客が増えると、宿泊費、飲食費、買物代などの消費が増え、経済活動が活発化する。2016年現在、世界で最も国際観光収入が大きい国はアメリカ合衆国であり、日本は世界11位である。GNI（国民総所得）に占める国際観光収入の割合を見ると、国の経済に観光産業

がどのくらい影響を与えているかがわかる。国際観光収入 1 位のアメリカは GNI 比 1 ~ 5%、11 位の日本は 1%未満であるのに対し、3 位のタイは、10%以上と観光産業の占める割合が高い。タイ政府は従来の観光に加えて、医療ツーリズムや MICE の誘致にも力を入れている。

■ ■ ■ 日本の観光産業 ■ ■ ■

産業の空洞化、人口減少、少子高齢化が進む日本においては、経済活性化の切り札として、観光産業が期待されている。日本政府は、2004 年からビジット・ジャパン・キャンペーンを展開し、外国人観光客の入国管理の緩和、外国語の案内板や観光情報を出す拠点整備などを推進している。その結果、外国人観光客数は 2010 年の約 860 万人から 2017 年には約 2,800 万人と 3 倍以上に伸びており、2020 年に 4,000 万人、2030 年に 6,000 万人を受け入れることが政府の目標となっている。

外国人観光客を増やすためには、国だけでなく地方自治体や民間が果たす役割も大きい。埼玉県川越市では、伝統的な景観の保全、多言語対応の整備などを行うとともに、テレビやインターネットを活用した集客活動に力を入れている。

今後、日本が観光大国になるためには、外国人観光客の言語や文化の違いへの理解を深めるなど、より充実した受け入れ体制を図ることが重要である。